

## 1 目指す学校

「ハイレベルな文武両道」の実践を通して、バランスの取れた社会のリーダーを育成する学校

- (1) 高い知力と品位、豊かな情操を身に付けさせる学校
- (2) 体力・気力・精神力を鍛え、困難に挑戦できる意志と実行力を身に付けさせる学校
- (3) 生徒の進路希望を達成させ、保護者・地域から高い支持と評価を受ける学校
- (4) 城東地域の学校教育をリードする全日制普通科高校

## 2 中期的目標と方策

東京都教育委員会から進学指導特別推進校として指定された5年間の4年目となる。この特別推進校の定義は「将来の日本のリーダーとなり得る高い資質をもった生徒に対し、国家や社会に対する責任と使命を自覚させるとともに、思考力、判断力、表現力を鍛え国公立大学（四年制）、難関私立大学等への進学希望も実現させることのできる学校」である。都民や地域の皆様の期待に応えられるよう、教職員が一丸となって、生徒が持っている潜在的能力を最大限引き出し、充実した高校生活と希望する進路実現の両立が可能であることを、引き続き検証していく。

### (1) 学習指導 <質の高い授業実践により、確実な学力向上と能動的な学習を実現>

- ア 「授業で勝負」を合言葉に、質の高い授業実践を通して、生徒の学力向上を確実にするとともに、難関に挑戦しようとする意欲を引き出す。
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業の工夫・改善を重ね、生徒が生涯にわたって能動的に学び続ける態度につなげる。
- ウ 英語力の向上に向けて、授業だけではなく多角的なアプローチを実践する。
- エ 学ぶことの意義を理解させ、受動的な学習から能動的な学習へと転換を図る。
- オ 新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を目指し、教育課程を編成する。

### (2) 進路指導 <「ウィンズプロジェクト」による進路指導の充実と生徒の進路実現>

- ア 本校の進路指導体系である「ウィンズプロジェクト」に「総合的な探究の時間」での探究学習を位置付け、生徒の主体的な進路意識を高める学習プログラムとして精選・充実を図る。
- イ e-ポートフォリオを活用し、生徒の学びの振り返りや模試データを共有し、担任、教科担当、部活動顧問等がそれぞれの関わりの中で、生徒に最後まであきらめさせない進路指導を行う。
- ウ 幅広い教養と知力を身に付けさせるため、読書活動の推進を図るとともに、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての学校図書館の機能の充実を努める。
- エ オリンピック・パラリンピック教育を通して、日本人としての自覚と誇りを持ち、豊かな国際感覚を身に付けた人材を育成する。

### (3) 生活指導・健康教育 <規範意識を醸成し、自立した生徒を育成するための生活指導の徹底>

- ア 計画的・継続的な服装・頭髪指導、登下校時の交通安全指導、自転車事故防止や校内外での挨拶励行の指導を継続することにより、社会の一員として必要な行動規範を身に付けさせる。
- イ 健康教育を推進し、生涯を通じて自らの健康を保持増進するための資質・能力を向上させるとともに、生徒のストレス対処に向けた心のケアに対応する教育相談体制の充実を図る。
- ウ ホームルーム活動や生徒会活動の充実、体育祭、文化祭、合唱祭などの学校行事の一層の活性化を進め、生徒の自主性・自律性を伸ばさせるなど、調和のとれた人材を育てる。
- エ 校内美化活動、ごみの分別、リサイクル活動等の充実を図り、環境問題への対応と校内環境の整備に努める。

### (4) 特別活動・体力向上 <体力・集中力の向上と人間性を育てるための特別活動の充実>

- ア 部活動は、生徒の体力・技能・集中力の向上に向けて、合理的でかつ効果的に行う。学習との両立を基本とし、上位の大会やコンクールへの出場を目指す。
- イ 「本物を見る・本物に触れる」活動を充実させ、探究に向かう意欲を引き出す。
- ウ ボランティアに関わる体験活動の充実を図り、社会奉仕の精神の涵養に資する。
- エ 海外の高校生等との交流活動を推進し、グローバル化に対応できる資質・能力を育成する。

(5) 募集・広報活動 <広報活動の活性化と応募倍率の向上>

- ア 本校の特色ある教育活動をホームページや学校説明会などあらゆる機会をとらえて積極的に発信し、学住接近のメリットを積極的に広報するなど生徒募集への取組みを強化する。
- イ 地域に開かれた学校を目指し、地域からの支持をより強固なものとするため、地域町会との連携や地域貢献活動の展開、学校開放事業の推進に努める。

(6) 学校運営・組織体制 <PDCAマネジメントサイクルを活用した学校運営の推進>

- ア 新しい時代に必要となる資質・能力の育成を踏まえ、教科等の枠を越えた「カリキュラム・マネジメント」を実現させる。
- イ 教職員が「チーム小松川」として、ライフ・ワーク・バランスを重視するとともに、やりがいや成長を実感できる職場環境を実現させる。
- ウ 学校施設・設備の円滑かつ効率的な活用と適正な管理・保全に努めるとともに、さらなる有効活用について検討を重ねる。

### 3 今年度の取組目標と方策

#### (1) 教育活動の目標と方策

##### ア 学習指導

<目標> 「授業で勝負」を合言葉とし、質の高い学習指導に向けての授業改善を推進する。

<方策>

- ① 新学習指導要領の理念を全教員で再確認し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組む。生徒の思考力育成に向けて、考えさせる発問やアウトプット（書く、話す、話し合う、発表する）を積極的に取り入れる。
- ② 課題、補習、小テスト等により基礎・基本の定着を図る。学習課題については内容の精選と教科間での調整を通して、生徒の「やらされ感」を軽減するようにする。
- ③ 教科内での教材の共有化を進め、定期考査の共通化（公民）を完成させる。
- ④ 全学年で実施される「総合的な探究の時間」の理念と指導法を全教員で共有し、PDCAマネジメントサイクルを通して質の高い内容に仕上げていく。
- ⑤ 2年次の「課題研究」において、1・3学年の担任を除く、全教員（管理職、非常勤教員、JETを含む）で指導にあたる。
- ⑥ 年2回の「授業見せ合い月間」や生徒による授業評価を活用し、教科ごとに授業改善に取り組む。
- ⑦ 英語の4技能をバランスよく育成するために、CAN-DOリストを中心として、本校英語教育のスタンダードを確立し、英語教育推進校としての役割を果たしていく。
- ⑧ デジタル技術を活用した教育の推進を図るため、ICT環境の利活用として、無線LAN (Wi-Fi) の利用や、「Microsoft Office 365」(Teams等)を全学年で活用する。
- ⑨ 図書館へ複数配布される新聞紙や「総合的な探究の時間」を活用し、主権者教育及び消費者教育を推進する。
- ⑩ 図書館、学年、教科の連携を通して、生徒の読書活動を推進する。

##### イ 進路指導

<目標> 進学指導特別推進校として、本校独自の進路指導計画「ウィンズプロジェクト」を核とし、入学時点から3年間を見通した小松川の進路指導を進路指導部が中心となって推進し、塾・予備校に頼らず、高い目標を持たせた生徒の進路実現につなげる。

<方策>

- ① 進学指導特別推進校として、改善すべきことは東大を含め旧7帝大、東工大、一橋大、国立大医学部合格者の人数を10人以上（昨年度6人）に増やしていく。そのためには、在校生と卒業生から、東大と国立大医学部の合格者を出す。（難関国公立大学の合格者数の増加を目指す。）
- ② 入学時から生徒と保護者に東大を含め旧7帝大、東工大、一橋大、国立大医学部の難関大の魅力や良さを情報提供し、目標となるように進路部が中心となって、生徒・教師・保護者とともに学校の雰囲気醸成していく。
- ③ 新2年生から、2年の12月に高い志望を持たせるための「第一志望宣言」を提出させる。
- ④ 大学入学共通テスト、英語外部認定試験、総合型選抜及び学校推薦型選抜、調査書の電子化に向けて、確実な対応を組織的に情報の共有化を図る。
- ⑤ e-ポートフォリオを効果的に活用するために教員研修を定期的実施する。

- ⑥ 模試結果データに基づいた資料を活用し、最後まであきらめさせない指導を行う。模試分析会に、学年及び教科担当者が悉皆で参加し分析を行い、生徒に情報の還元をする。特に3年生ではケース会議を年2回行い、出願指導等に活用する。
- ⑦ 進路行事への保護者参加や三者面談の実施を通して保護者と連携した進路指導を展開する。
- ⑧ 長期休業期間中の講習について、予備校や塾に頼らないことを前提にして、計画・実施する。
- ⑨ 「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒間で共有させ、家庭学習を一層促す。
- ⑩ 自主学習を支援するため、放課後に自習できる環境（教室・コマホール）を保証する。
- ⑪ オリンピック・パラリンピック教育を実践し、東京2020大会以降のレガシー構築を見据えて、多様性を尊重する態度を育てる。

## ウ 生活指導・健康教育

<目標> 社会人としての規範意識を身に付けた人間性豊かな生徒の育成を目指す。また、生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう学習環境を整備する。

<方策>

- ① 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を指導方針とし、全教員による一致した生活指導を行い、社会人としての規範意識を身に付けさせる。チャイム始業の徹底はこれまで通り継続する。
- ② 時間厳守の基本である登校時間について、予鈴までの登校を徹底し、生徒の遅刻防止につなげる。
- ③ 計画的・継続的な服装・頭髪指導等の身だしなみや校内外での挨拶励行の指導を継続する。
- ④ 交通ルールの遵守と自転車事故防止に向けた交通安全指導を行う。また、登下校時のマナーやSNSに関するモラルに関する指導も継続していく。
- ⑤ 体罰の禁止・根絶についての未然防止・早期発見・早期対応を図る。
- ⑥ 毎月の教育相談連絡会を活用し、生徒の長期欠席やいじめを未然防止する。
- ⑦ 誰も自殺に追い込まれることのないよう、SOSを出しやすい環境を作る。
- ⑧ 校内美化活動、ごみの分別、リサイクル活動の充実を図る。
- ⑨ 授業日の登下校時以外は校門を閉鎖し、生徒の安全・安心に努める。

## エ 特別活動・体力向上

<目標> 特別活動での取組みを通して、人間として成長させる。

「本物を見る・本物に触れる」ことを通して、知的好奇心を引き出し能動的な学習につなげる。

<方策>

- ① 学校行事全体の活性化を進め、全校生徒の成就感や達成感を高める。
- ② 海外修学旅行の事前準備を新学年と探究部が中心となって計画し、令和5年度に実施する。
- ③ 部活動は学習との両立を基本とし、合理的かつ効率的に実施する。また、地域貢献ボランティア活動「1クラブ一善運動」に取り組む。
- ④ 海外学校間交流推進校として、海外の高校生との交流活動の機会を増やす。探究部が、8月に語学研修のため、留学生との交流もできる立命館アジア太平洋大学訪問の希望者を募って実施する。
- ⑤ 理数研究校として、校内・校外での本物体験を推奨し、科学の甲子園やコンテスト等へも参加する。
- ⑥ 年4回の避難訓練、防災訓練、生徒による防災支援隊を通して、自助・共助の意識を高める。地域の町会からも積極的に参加していただき、地域との連携をより強化した防災教育を実践する。
- ⑦ 体育の授業や部活動を通して体力向上を図る。体力テストにおいて、すべての学年で全国平均以上となるようにする。
- ⑧ スポーツ特別強化校として全国大会の上位入賞を目指し、さらにボート部の競技力向上を図る。

## オ 募集・広報活動

<目標> 本年度は、中学校卒業予定者数増に伴い募集・広報活動の工夫・改善により、応募倍率の向上のため重点的に取り組む。

<方策>

- ① 本校の特色ある教育活動の魅力を伝えられるよう全教職員で共通理解し、広報活動に取り組む。
- ② ホームページは、生徒の活躍（学習、行事、部活動等）をタイムリーに学校ホームページに掲載し、日常の学校生活の情報提供に努める。
- ③ 新入生・中学生・保護者等のアンケート結果を分析し、効果的で効率的な募集・広報活動に向けて改善を図る。
- ④ 重点的に学習塾等への訪問をとおして本校の特色ある教育活動を伝え、募集・広報活動を推進する。

## カ 学校運営・働き方改革

<目標> P D C A マネジメントサイクルを活用した学校運営を推進する。

<方策>

- ① 「Microsoft Office 365」 (Teams等) を利用し、ペーパーレスも兼ねた職員会議を開催する。
- ② ライフ・ワーク・バランスの実現に向けて、校務を効率化し、月2回以上の定時退勤を徹底する。部活動指導員・外部指導員の活用、会議時間の短縮、および I C T の有効活用を進め、働き方改革につなげる。
- ③ 「チーム小松川」として、協力して新しい時代の学校を創り上げていく職場環境作りを進める。
- ④ 探究部を中心として、学校が直面する課題をとりまとめ、全教員で校内研修を行う。
- ⑤ すべての分掌・学年・教科が年度当初に組織目標を定め、中間報告、年度末総括を行う。
- ⑥ より良い学習環境に向け施設・設備の管理・保全と迅速な補修に努め特別教室の冷房化を推進する。
- ⑦ 経営企画室において、経営参画ガイドラインを活用して、資質・能力と経営参画意識の向上を図る。

### (2) 重点目標と方策(数値目標)

#### ア 生徒の学校に対する満足度 (学校評価アンケートの肯定割合)

項 目	目標値	前年度
学校生活の満足度	90%以上	90.0%
進路実現に向けての授業への満足度	80%以上	75.0%
講習・補習への満足度	90%以上	88.0%
三大学校行事に対する満足度	85%以上	71.0%

#### イ 生徒の希望進路の実現

項 目	目標値	前年度
国公立大学合格者数 (現役のみ)	70名以上	66名
早・慶・上智・理科大合格者数 (現役のみ)	80名以上	45名
学習院・明治・青山・立教・中央・法政大合格者数 (現役)	200名以上	278名
現役進学率	90%以上	91.7%

#### ウ 大学入学共通テスト

項 目	目標値	前年度
大学入試センター試験出願率	95%以上	99.4%
5(6)教科7科目型の受験者	120名以上	127名
得点率80%以上が受験者の半数以上の科目	5科目以上	3科目

#### エ 授業改善に向けた校内研修の実施

項 目	目標値	前年度
授業に対する校内研修 (授業の見せ合い) への参加率	100%	100%

#### オ 応募倍率の向上

項 目	目標値	前年度
推薦による入選の応募倍率 (男女平均)	3.5倍以上	3.38倍
学力検査による入選の応募倍率 (男女平均)	1.5倍以上	1.43倍
ホームページの更新回数	100回以上	年107回

#### カ 文武両道の実現

項 目	目標値	前年度
家庭学習時間 (学年+1時間)	1 学年	2 時間 平日165分、休日158分
	2 学年	3 時間 平日170分、休日110分
生徒の勉強と部活動との両立に対する肯定割合	75%以上	64.0%
遅刻者数 (学校全体の1日平均)	3人以下	3.5人
地域貢献ボランティア活動へ参加した部活動数	20以上	19